

市町村名		宮古島市						
平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7	雇用促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(10)-ア		
	担当部課名	観光商工局 商工物産交流課	事業実施(予定)年度	平成24年度	沖縄振興基本方針該当箇所	-2		
事業内容	本市の雇用促進に向けて、平成23年度に「地域雇用創造実現事業」にて開発された「島シャツ」の商品化に向けた取り組みを実施し、地域雇用の拡大を目指す。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況			24年度	24年度(繰越)	25年度	26年度	27年度
		(a)当初予算額		19,796				
		(b)予算現額		19,796				
		(c)増減額(b-a)		0	0			
		(d)前年度繰越額		-	1,979			
		A.計(b+d)		19,796	1,979			
		B.執行済額		17,813	1,856			
		うち交付金充当額		14,250	1,485			
		次年度繰越額		1,979	0			
		執行率(%) (B/A)		90.0%	93.8%			
予算の状況の説明		紡糸技術を共同研究開発予定であった紡績会社が民事再生法の適用を受け契約困難となり、新たな紡績会社との交渉を余儀なくされ、その調整に不測の日数を要したことから繰越事業となった。また、不用額に関しては、本事業は概算契約により実施しており、実績報告を受け完了検査による確定額となっている。当初計画した事業内容は実施しており、達成状況を鑑みても適正であったと考える。						
活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)		達成状況					
	苧麻を活用した島シャツの研究開発	目標	24年度	25年度	26年度	27年度		
		(島シャツの研究開発)	()	()	()	()		
	苧麻を活用した「島シャツ」生産販売業者における販売数	目標	24年度	25年度	26年度	27年度		
		()	()	()	()	()		
	苧麻を活用した「島シャツ」生産販売業者での雇用の拡大(原材料生産部門・販売部門)	目標	24年度	25年度	26年度	27年度		
()		()	()	()	()			
達成状況説明		島シャツの商品化に向け、紡糸技術の確立・販路の確保ができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度(繰越)	25年度	26年度	目標値(28年度)	
	苧麻を活用した島シャツの研究開発	目標	()	島シャツ(の研究開発)	()	()	()	
		実績		紡糸技術の確立・販路拡大				
	【参考指標】 苧麻を活用した「島シャツ」生産販売業者における販売数	目標	()	()	()	(100着)	(300着)	
		実績				0着		
	【参考指標】 苧麻を活用した「島シャツ」生産販売業者での雇用の拡大(原材料生産部門・販売部門)	目標	()	()	()	(合計2人)	(合計3人)	
実績					0人			
進捗状況説明		H24(繰越)H25年度に、宮古島産苧麻系(100%、混紡等)について紡糸技術の開発研究・シルバー・障害者等を含めた紡糸技術の開発研究・商品の開発・販路調査を実施した。 H26年度に、宮古島産苧麻系(100%、混紡等)の布地を作成(島外の紡織業者に依頼)し、「島シャツ」用生地を試作・選定を実施した。「島シャツ」事業を島内企業に紹介したところ3社が興味を示し1社が販売を前提に「島シャツ」試作品(開襟シャツ、ポロシャツ等)を作成した。試作品作成段階のため販売、雇用の拡大には至っていない。						

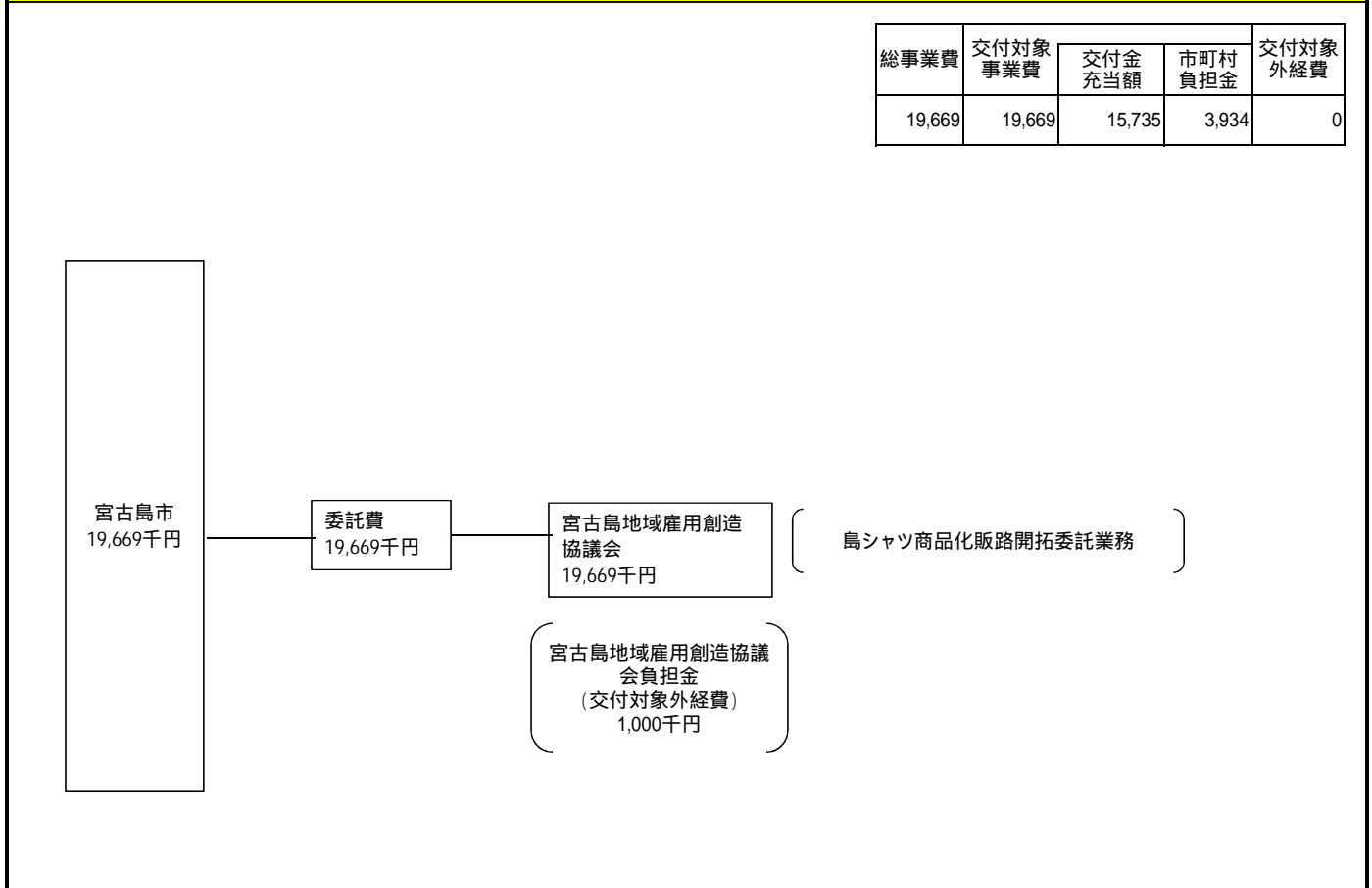
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>宮古上布の原料である苧麻や苧麻系の生産者が高齢化等により減少しており、高品質な苧麻系の供給が難しくなっている現状を改善するため、苧麻系の機械紡績技術の開発、新しい苧麻商品を開発し、苧麻生産の維持拡大と地域雇用の拡大を目指す。</p> <p>H24(繰越)H25年度に、シルバー人材センター及び障がい者を雇用した紡糸技術の開発を調査したが、経験者がいない及び健常者でも熟練を要する難しい行程の為、作業には向いていないとの課題が把握できた。</p> <p>苧麻生産栽培及び苧麻引き者が限られているという課題が把握できた。</p> <p>H26年度に、苧麻系の紡績技術の確立を行ったが、生地の安定供給のためには更なる宮古島産苧麻(原材料)の確保が必要である。島シャツ製造・販売に向けて1社が試作品の作成を行い販売に向けての体制作りをおこなったが、シャツを量産できる島内の縫製事業者に限りががあるため島外の縫製事業者には生産の一部を依頼する予定である。</p>	<p>H24(繰越)H25年度では、生産過程における散水作業及び収穫作業はシルバー人材センター及び障がい者の方々にもできる様な工程作りを検討する。</p> <p>また、宮古上布の販売数減少による糸の需要が減少し、苧麻の栽培者が減少している為、苧麻の繊維や茎、葉を資材や肥料、食材等に加工する等、様々な活用方法を検討する必要がある。</p> <p>島シャツ製造販売参加者を増やすためにも、原料である苧麻の生産拡大が急務であり、同時に「島シャツ」の認知度を向上させる為、まず、宮古島内で販売を実施し、生産体制を整えた上で島外への売り込みを予定している。</p>

今後の取り組み方針

本受託者(地域雇用創造協議会)を介して、地域の希望する団体等に今回の事業で得たノウハウを提供し島シャツブランドの広域な流通を目指す。更なる販路開拓においては、地域大手衣料品店等を通じた販売、企業向け等で販路を拡大する。また、苧麻の活用方法を検討し、生産者拡大を目指す。

平成27年7月から宮古島島内企業が「島シャツ」事業を実施する予定となっている。販売促進のため「プレミアム商品券」(地域住民生活等緊急支援のための交付金)の指定特産品プレミアム対象商品として販売し、「島シャツ」ブランドの普及に努める。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	雇用創造協議会にて、平成23年度に「地域雇用創造実現事業」にて開発された「島シャツ」の商品化に向けた取り組みの為、ノウハウを熟知している事から、委託先は妥当であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	活動目標・成果目標を達成しており、予算規模は適正であった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	雇用促進に向けた公共性の高い事業であり受益者との負担関係は妥当であると考えます。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用・使途については、完了検査にて確認、適正であった。